

「私が良いと感じた裁判官」

アンケート結果報告

裁判官選考検討委員会事務局長 柴垣 明彦 (44 期)

裁判官選考検討委員会では、2011年2月から4月にかけて、「私が良いと感じた裁判官」という標目で、全会員向けにアンケートを実施した。

制度概要

当委員会では、地裁所長などが行っている裁判官の人事評価や再任期裁判官の再任判断の資料とするため、広く会員からの情報提供の呼びかけを行っており、その提供された情報は重要な人事評価資料として活用されている。そして、今般は、会員がどのような裁判官像を理想と考えているかの資料とするためのアンケートを実施し、合計39名の会員から、33名の裁判官についての回答をいただいた。なお、本件結果については、理事者会の了解の下、報告者名を伏して裁判所へ参考として送付している。

質問事項

質問項目は、大きく3つの観点を設定し、それぞれを2つに分けて回答を依頼した。1つ目は法的判断能力、2つ目は職務熱心さ、3つ目は人柄の良さをそれぞれ視点として、良いと思った点を指摘してもらった。

アンケート結果

1. 法的判断能力が優秀という観点

判断が適正ということを指摘した人が14名(対象裁判官13名)、審理過程が円滑・迅速であると指摘した人が9名(同9名)

2. 職務熱心であるという観点

判断内容が適切とした人が9名(同9名)、審理過程が円滑・迅速とした人が8名(同8名)

3. 人柄の良さという観点

判断に説得力があったとした人が9名(同9名)、

審理過程に説得力があったとした人が8名(同8名)

4. 自由記載欄

事実認定能力が優れている、バランス感覚に優れている、一般の家庭生活をよく理解している、威張らない、親しみやすい、争点整理が的確で早い、などの積極評価が記載されていた。

5. 高評価を受けた33名の裁判官の内訳

家庭裁判所裁判官が2名、高等裁判所裁判官が7名、地方裁判所裁判官が24名(うち刑事部2名)であり、特に高裁民事部総括のS裁判官、地裁民事部ではK裁判官・H裁判官・E裁判官・M裁判官の4名には、複数の会員からの高い評価があった。

アンケート結果から推測されるもの

会員は、裁判官の法的判断能力をよく見ていることが分かる。また、職務熱心、または人柄の良さは、代理人との間できちんとコミュニケーションがとれる裁判官を意味し、会員はこのような裁判官を支持していると考えられる。

会員の皆さんへのお願い

受任事件の個別的対応ばかりでなく、我々の職場環境でもある司法制度の質向上を図るためにも、裁判官の研鑽資料となる人事評価情報などを積極的に提供することは重要である。そして、提供された情報は情報提供者が特定されない方法で活用されており、今後の当委員会からの呼びかけにご協力いただきたい。そしてその為には、まず、会員諸氏も担当裁判官の氏名を記録にメモすることを習慣にし、時に優れた又は研鑽を必要とする裁判官に接した場合には、当委員会を思い浮かべていただきたい。